

～ハツとしたとき出るエッセイ～



坊守のひとりごと



愛知県安城市和泉町中本郷41

2024年7月6日号

人は去っても
その人の
言葉は残る

「言葉によって生かされる」

毎月必ず新しくしていた門前掲示板の法語が、前坊守が亡くなる少し前から数ヶ月後まで替えることが出来ませんでした。住職も私も、母からたくさんの言葉をいただけてきました。

「お寺は大事、仏法ちようもん 聴聞ちようもん が大事」 「聴聞しないと本当の自分に会えない」

「お斎ときは大事、手を抜く努力はするな」 「自分で自分の枠わくを決めるな」

若いころの私は「何で私が…」 「私には無理です！」 こんな言葉を常に母や

住職にぶつけてきました。でも母から帰ってくる言葉は

「阿弥陀さまの御用をさせていただいているのに、自分の都合で無理と言うな」

皆さんのために、皆さんとともに、お寺の勤まりごとを一生懸命させていただく、この姿勢を徹底的にたたき込んでいただきました。

母は、お寺のことや仏さまのことなど何も知らない私を育てるために、いろいろなことを取り入れて、生活と結びついた仏法を身をもって教えてくれました。前住職の糖尿病をご縁に、自然療法や自然食を実践しました。お陰で5人の子どもたちは、すくすく丈夫に育ちました。ご自身も88歳まで病気知らずで、健康自慢しながら本堂の最前列で背筋をピンと伸ばして聴聞しておられました。その後、大腿骨骨折→大腸癌→2度目の骨折…。老いて病んで一つずつ出来なくなって一つずつ仏さまにお返しして、90歳誕生日の翌日に静かに浄土に還っていかれました。

住職も私も、お寺の行事を皆さんとともに勤めすることが何よりも大事であるし、自分たちの喜びとなりました。

先日境内で草取りをしていたら、門前にトラックを停めた知らない顔の宅急便のお兄ちゃんが、荷物を置いて走って戻る途中「あっ」と言って立ち止まりました。「ボク普段は忘れていたんですけど、この掲示板に書いてある言葉にああそうだなあと思い出させてもらって、ありがたかったです」と言ってくれました。忙しそうなお兄ちゃんがわざわざ感動を伝えてくれたことが、本当に嬉しかったです。

「苦」の正体は
「思い通りにしたい」という自己願望

私たちは子どもが育ったら、あちこち旅行しようとかマラソン大会に出ようとか話していましたが、今一番嬉しいのは、お寺に来た人が「真実の言葉」に出会って少しでも感動したり元気が出たりする姿を見せていただくことです。前坊守から託されたお寺の使命と役割を、次の世代に伝えていきたいと強く思うこのごろです。

坊守 樋口頼子

あ と
が き

第79号をお届けします。イベントはたくさん人が集まって賑やかで楽しいですが、やはり毎月の法話会がきちんと勤まっています初めて成り立つのだと考えます。「真実の言葉」からもらった元気をまわりの人へお分けする場がお寺でのイベントでありたいと思います。(頼)